

富士市の歴史文化探訪

富士山





富士山百景写真コンテスト作品より



第10回金賞「多重笠雲」小野正之



第9回入選「早春」内田悦朗



第7回西部ブロックエリア賞「菜の花」



第6回入選「八十八夜」



第9回入選「美白のツリー」市村廣一



第10回入選「いい日旅立ち」中野進

# 目次

表紙絵・・・川瀬巴水「元吉原の朝」(富士山かぐや姫ミュージアム蔵)

富士山の誕生	2
富士山の自然	3
富士山の信仰	4
富士山の芸術・文学	6
富士山史跡マップ	8
富士山の信仰に触れる(東泉院と下方五社)	10
富士山に向かう玄関口(松岡水神社と富士山道)	12
富士山へ至る道(富士塚・富士山村山道)	14
富士山を望む	16
富士山に祀る(岩淵鳥居講)	18
富士山古写真館	20
富士山かぐや姫ミュージアム	21





第9回富士山百景写真コンテストグランプリ「強雪富士」 松永隆司

## 富士山の誕生

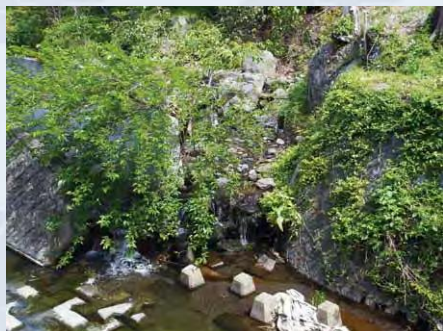
富士山は、標高三、七七六mと日本一の高さを誇る独立峰です。山は玄武岩でできた成層火山（火口からの複数回の噴火により溶岩や火物などが積み重なり形成された円錐状の火山）です。その形成は約十万年前に小御岳火山が誕生し、十万年から一万七千年前の古富士火山、一万七千年前より現在にいたる新富士火山の噴火活動によって現在のような形となりました。最新の研究成果では小御岳火山以前にもうひとつ火山があったと考えられています。（先小御岳火山）

富士山は過去何度も噴火を繰り返してきました。記録にみえる噴火は天応元年（七八一）を始めとして、その後も延暦一九〇二年（八〇〇）〜八〇二）に大規模な噴火がありました。さらに貞観六〜七年（八六四〜八六六）にかけての噴火では、溶岩流が本栖海（湖）と剗ノ海を埋め、河口湖に迫ったと記録にあります。なお、その溶岩は剗ノ海を分断し、現在の西湖と精進湖となりました。

宝永四年（一七〇七）の大噴火では、宝永火口を造り、東側に火山灰による広大な火山荒原を形成し、現在の姿になりました。以後、噴火活動は穏やかですが、今も息づく火山としてそびえ立っています。

# 富士山の自然

富士山はその噴火活動によって周辺に大きな影響を及ぼしてきました。地震や溶岩を伴う大規模な噴火によって、大きな被害を人々にもたらしてきましたが、同時に美しい自然の造形を造り、豊かな恵みももたらしてきました。富士山から流れ出した溶岩が地表を覆い、その溶岩は富士山に降った雨や雪を何十年とかけてろ過し、きれいな地下水を作ります。富士山周辺ではこの水が湧水となり、豊富な湧出量を誇っています。富士市では豊富な地下水が工業用水や飲料水として人々の生活を支えています。また、溶岩は溶岩樹形や風穴ふうけつを造り出しました。また、市内には溶岩により形成された樹形や風穴がいくつか発見されています。



富士の湧き水（富士市原田）



厚原風穴（富士市厚原）



富士火山の構造模式図（富士市立博物館第53回企画展「富士山の下に灰を雨らす」図録より転載）

# 富士山の信仰

噴火をくり返す富士山の山頂には浅間大神という神がいると考えられてきました。その神に祈りをささげ、噴火を鎮めるために富士山の麓には数多くの浅間神社が造られてきました。江戸時代までの日本には神は仏の化身としてあらわれるとする考え方がありました。

このため、富士山の神も仏の姿で描かれることがあります。特に富士山は、山頂に阿弥陀三尊がいるものと考えられていました。また、山頂の火口と山頂の八つ嶺にもそれぞれ仏が存在しているものと考えられていました。それゆえに、富士山は古くから人びとの信仰を集めてきました。人びとは麓から山頂までの広い範囲の中に、神や仏に祈りをささげる場所を造り、その結果として富士山信仰の世界が形づくられてきたのです。

平安時代の終わりに修行僧末代人が数百度の登山を行い、山頂に大日寺、富士山麓の村山に興法寺（村山浅間神社）を創建したといわれています。鎌倉時代には興法寺の僧侶であった頼尊が富士山における修行者を組織化し、富士山における山岳信仰「富士行」を確立しました。その後、戦国時代に富士山周辺や人穴（富士宮市）で修行を行った長谷川角行を開祖とする「富士講」が江戸時代中期から後期にかけて江戸周辺の庶民に浸透します。このため、富士山には多くの人が訪れました。しかし、明治時代に入ると政府が神仏分離政策を推進し、それまでの修験を中心とした信仰は薄れてきました。近年、再び、信仰の場としてその価値が認められ、平成二十五年六月に世界文化遺産登録されました。

また、富士市には須戸湖（須津湖）があったといわれています。須戸湖は富士講の巡礼地である富士八海（現



三尊九尊図（個人蔵）



在は山中湖、河口湖、西湖、  
 精進湖、本栖湖、四尾連湖、  
 明見湖、泉津（瑞）湖）の  
 内に数えられていました。  
 しかし、資料によっては浮  
 島沼の一部、浮島沼とは別  
 の湖があったと様々で正確  
 な位置はわかっていませ  
 ん。現在は「かすながら名  
 のみのこりて須津の湖 三  
 素哉」と刻まれた碑が建て  
 られ、往時を忍ぶことがで  
 きます。



須戸湖碑



歌川国輝「富士山諸人参詣之図」  
 (富士山かぐや姫ミュージアム蔵)



富士山禪定図 (富士山かぐや姫ミュージアム蔵)

## 富士山の芸術・文学

富士山はその神秘的な姿から古くより、芸術・文学の対象となってきました。

富士山に関して最も古い記録は和銅六年（七一三）の『常陸国風土記』に記されています。奈良時代に編纂された万葉集には山部赤人の「田子の浦ゆ　うちいでてみれば真白にぞ　富士の高嶺に雪は降りける」という有名な歌が納められています。平安時代には物語の祖とされる『竹取物語』で富士山が重要な場面で登場します。中世には『海道記』、『十六夜日記』といわれた紀行文にその情景が描かれています。明治時代以降も正岡子規や夏目漱石、太宰治といった多くの有名な歌人や文豪の作品に登場します。

絵画では、富士山を描いた作品としては現存最古といわれる国宝の秦致貞筆「聖徳太子絵伝」（東京国立博物館蔵）をはじめ、多くの作品に描かれています。また、室町時代の重要文化財である狩野元信筆「富士参詣曼荼羅」は富士山の登拜の様子を知る上で貴重な資料といえます。江戸時代には葛飾北斎筆「富嶽三十六景」、歌川広重筆「富士三十六景」などの浮世絵に描かれました。明治時代以降も横山大観や和田英作といった多くの画家が富士山の絵を描いています。



神戸麗山「富岳図」（個人蔵）

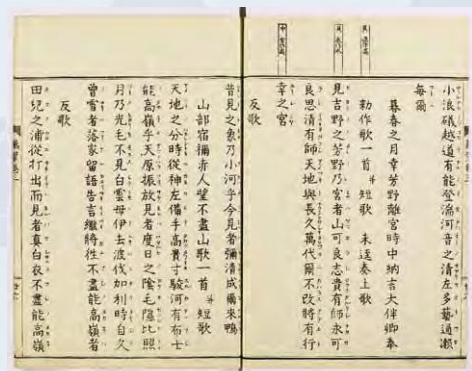




歌川国芳「雅業平東下り」(富士山かぐや姫ミュージアム蔵)



高橋弘明「富士川上り舟」  
(富士山かぐや姫ミュージアム蔵)



「万葉集」(出雲寺文治郎『万葉和歌集校異』)  
(富士市立富士文庫蔵)



歌川広重「五十三次 吉原 ふじの沼」  
(富士山かぐや姫ミュージアム蔵)

# 跡マップ



## ★お願い

史跡には必ずしも駐車場があるわけではありません。  
近隣の公共施設等に駐車する場合には、必ず施設の管理者に許可をいただして下さい。

P10  
東泉院  
日吉浅間神社

P11  
今宮浅間神社

P11  
滝川神社

P17  
左富士

P17  
河合橋

P14  
富士塚

P16  
山部赤人の万葉歌碑

P16  
望嶽碑



# 富士山史



● P13 入山瀬浅間神社

● P13 凡夫川水垢離場

● P17 眺峰館

● P11 富知六所浅間神社

● P12 松岡水神社

● P17 鶴芝の碑

JR東海道本線

(富士由比バイパス)

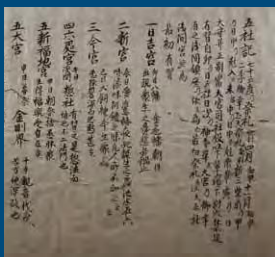
# 富士山の信仰に触れる



## とうせんいん しもかたごしや 東泉院と下方五社

東泉院は山号を「富士山」とする密教寺院であり、現在の富士市今泉にありました。この寺は下方五社別当職を代々引きついできました。寺の由緒では富士山は「三国無双の名山で国家を護る神の山」で、富士山の神を祀る浅間宮を設けて絶えず、鎮火祈禱をおこなう必要があるとされます。

ちなみに下方とは富士郡下方（現在の富士地域の大部分）を指し、別当とは神社を管理し、代表者としての権限をもつものを言います。下方五社とは東泉院が管理していた五つの浅間神社です。日吉浅間神社、滝川神社、富知六所浅間神社、今宮浅間神社、入山瀬浅間神社のことです。この五社の中には富士南麓に伝わるかぐや姫の縁のある神社も含まれています。



『富士山大縁起』「五社記」  
（富士山かぐや姫ミュージアム蔵）

- ◆吉原公園 P 普通車6台
- ◆日吉浅間神社 富士市今泉8-5 参拝者用駐車場あり
- ◆滝川神社 富士市原田1309
- ◆今宮浅間神社 富士市今宮387 参拝者用駐車場あり
- ◆富知六所浅間神社 富士市浅間本町5-1 参拝者用駐車場あり
- ◆入山瀬浅間神社 富士市入山瀬4-9-1





いりやま せんげんじんじや  
入山瀬浅間神社

詳細は13ページをご覧ください。



いまいみやせんげんじんじや  
今宮浅間神社

貞観6年(864)頃、大淵丸火溶岩流の先端に社を建て、山霊を鎮め災害が起きないように浅間大神を祀ったのが本社の始まりではないかと推測されています。



ふじろくしよせんげんじんじや  
富知六所浅間神社

孝昭天皇の御代2年6月10日に富士山頂に祀ったものを噴火が続いて祭祀ができなくなったために、延暦4年(785)に今の場所へ移したと言われています。



ひよしせんげんじんじや  
日吉浅間神社

言い伝えではこの神社は崇神天皇5年(紀元前93)に勧請され、社殿は富士郡の久爾郷(富士市伝法のあたりか)に建てられたとされます。



たきがわじんじや  
滝川神社

口伝では孝霊天皇の御代に起きた富士山の大噴火の際に鎮座し、人々の恐れを鎮めたと伝えられています。

# 富士山に向かう玄関口



まつおかすいじんじや  
松岡水神社と富士山道 ふじさんみち

富士市松岡字船場一八一六

江戸時代に、駿河<sup>するが</sup>以西から富士登山をする行者の多くは、富士川を渡ったこのあたりから、浅間大社のある大宮<sup>おおみや</sup>を経て、村山口に向かったものと考えられています。この道しるべは、東海道から富士山へ向かう分岐点に建てられていたもので、現在は松岡水神社境内に移設されています。



上の図は、『富士山禅定図』（富士山かぐや姫ミュージアム蔵）より、部分拡大したもので、「水神」の右に「富士山道」の標識があり、そこから大宮まで「富士本道」が描かれています。





いりやま せんげんじんじや  
**入山瀬浅間神社**

富士市入山瀬4丁目

新福知浅間神社とも呼ばれました。明治26年(1893)10月に書かれた棟札には、平城天皇が大般若経を奉納したという伝承があること、また応永2年(1395)の銘が刻まれた鰐口が伝えられていたことが記されていました。

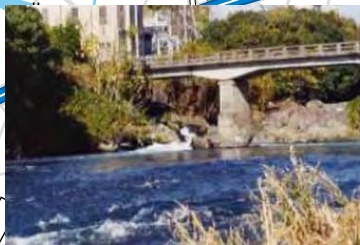
**入山瀬浅間神社**

**凡夫川水垢離場**

**松岡水神社**

ほんぶ みずごりば  
**凡夫川水垢離場**

凡夫川と潤井川が合流する立願淵(龍巖淵)のあたりで、富士登拝を終えた道者が垢離をとり、精進明けて国元へ帰りました。





## 富士塚 ふじづか 富士市鈴川一三―三二

富士山登拜のため、登山者が浜で身を清め（浜垢離はまごり）、登山への安全と無事を祈願し、浜から拾ってきた小石を積み上げたものだとして江戸時代の資料に記されています。静岡県で現存する唯一の富士塚と考えられます。築造時期は不明ですが、文献等の記録やその構造から富士講による築造ではないと考えられます。



右 明治、大正時代の富士塚

## 富士山村山道 ふじさんむらやまみち

村山道は東海道吉原宿西木戸にある「四間橋しよけんはし（志軒橋）」を起点として村山にいたる道を指します。中世まで興法寺こうぼうじ（現在の村山浅間神社）は村山修験の修行の場となっていました。しかし、江戸時代に入り、大宮の本宮浅間社おみや（現在の浅間大社）で山役銭やまやくぜん（入山料）を納めて、村山から山頂を目指すルートが幕府に認められると富士講の隆盛や宝永噴火の影響により、興法寺は経済的に衰退していきます。そこで村山は、登拜者を直接村山に導く「村山道」を設定します。村山は登山ルートを示した絵図を発行し、道の途中に道しるべを設置しました。道しるべは現在七基（うち五基が富士市内）が残されています。





⑤ いちごだいら  
覆盆子平



④ いし  
前



③ おおみね  
大峯

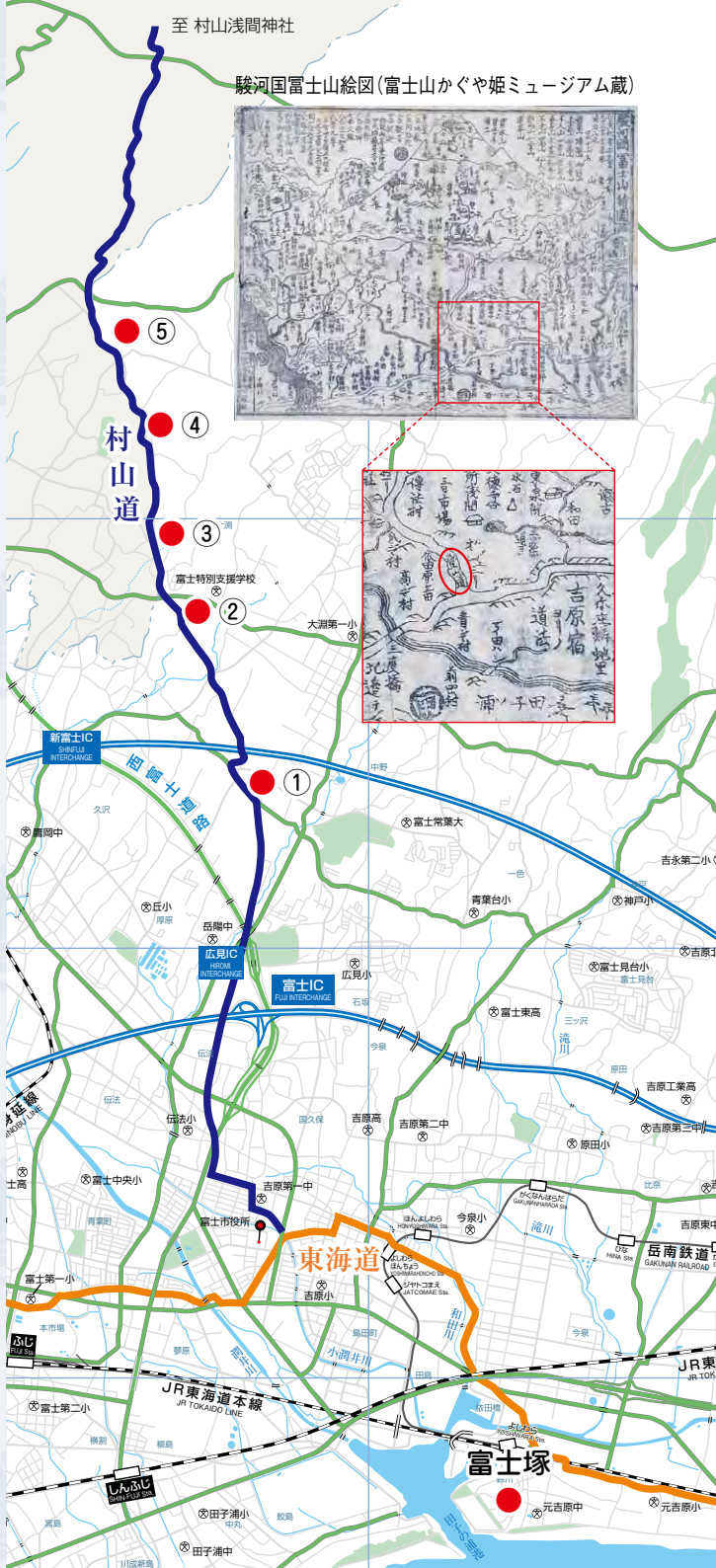


② よこやま  
横山



① つしはた  
辻畑

※①～⑤の見出しは設置場所の小字から



至 村山浅間神社

駿河国富士山絵図(富士山かぐや姫ミュージアム蔵)



# 富士山を望む



歌川国芳(百人一首之内「山辺赤人」(富士山がぐや姫ミュージアム蔵)  
やまべのあかひと まんようかひ  
**山部赤人の万葉歌碑** (ふじのくに田子の浦みなと公園内)

「田子の浦ゆ うち出れば ま白にぞ  
富士の高嶺に 雪は降りける」(反歌)

万葉集に選歌された山部赤人の富士山を望む歌一首のうちの短歌です。富士山を望むふじのくに田子の浦みなと公園内に建てられています。



ぼうがくひ  
**望嶽碑**

富士市西柏原新田 (立圓寺)

文化5年(1808)尾張藩(愛知県名古屋市の藩医柴田景浩)が建立しました。ここから眺める富士山の景色を称えています。





ちょうほうかん  
**眺峰館** 広見公園内

明治時代、吉原の町に建てられていました。3階からの富士山の眺めが絶景だったことからこの名がつけられました。



かわいばし  
**河台橋** 富士市鈴川本町

富士山の眺めの良さから江戸時代の浮世絵や明治、大正時代の絵葉書などで、名所として描かれました。



つるしば かめしば もといちば  
**鶴芝・亀芝** 富士市本市場

江戸時代、東海道の間宿本市場にある茶屋から富士山を眺めると、麓の様子が、冬は雪で白く鶴が舞うようで、夏は緑が繁って亀が泳いでいるようだと、評判になりました。京の画家が鶴を描き、江戸の学者が歌にしたものを刻んだ「鶴芝の碑」が残されています。



ひだりふじ  
**左富士** 富士市依田橋

東海道を江戸から京へ向かうと富士山は絶えず、右側に見えます。しかし、この付近だけ、松並木の中に富士山が左に見えます。このことから左富士と呼ばれています。歌川広重の浮世絵でも取り上げられ、東海道の名所となりました。



歌川広重(初代)東海道五拾三次之内「吉原」(富士山かぐや姫ミュージアム蔵)

# 富士山に祀る



## 岩淵鳥居講 いわぶちとりいこう

富士市岩淵

岩淵には鳥居講といわれる行事があります。富士市岩淵の八坂神社の氏子を中心となつて十二年に一度の申年に白木の鳥居を富士山頂奥宮に奉納する行事を行います。鳥居講がいつから始まったかは定かではありませんが、江戸時代の後半には既に行われていたことが記録で明らかとなっています。一説には東海道で富士川の渡船役を岩淵村で請け負った時に渡船の材料として富士浅間神社（富士山本宮浅間大社）の社領から木材を切り出し、そのお礼と渡船の安全を願つて鳥居の奉納が始まったといわれています。また、富士山が六十年に一度巡つてくる庚申の年に突如出現したという伝説（庚申縁年）から、鳥居の奉納も縁年にちなんで、申年に行われたと考えられます。

近年の日程では七月下旬ごろ岩淵八坂神社で、その年に奉納する鳥居を披露し、講員たちは祓いを受けて神社を出発します。途中、富士山本宮浅間大社（富士宮市）を参拝し、楼門前で鳥居を組み立てて祓いを受けます。その後、新五合目までバスで移動してから、講員たちは富士登山を敢行します。昔は講員や強力こつりきによって鳥居を運びあげましたが、現在ではブルドーザーで運んでいきます。講員は九合目の山室で一泊し、翌朝に登頂して頂上の奥宮前に鳥居を建立します。その後奉納式が行われ、全ての工程が終わると順次、下山していきます。

近世から受け継がれている鳥居講は、現代において非常に貴重な民俗行事であるといえます。





八坂神社を出発（平成28年）



前回建てた鳥居の撤去（平成28年）



鳥居をロープで建てる（平成28年）



完成した鳥居のお祓い（平成28年）



富士山頂に奉納された鳥居（大正9年）

## 富士山古写真館

明治～大正期には、日本各地の名所や風俗が写真に収められ、絵葉書として広く流通しました。特に、富士山を背にした風景は数多く撮影され、手彩色された状態のものもあります。



「富士を背にした茶摘」



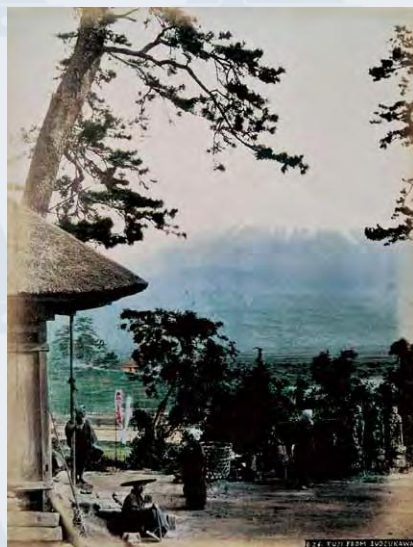
「浮島からの富士」



「岩淵からの富士」



「富士川橋からの富士山遠望」



「鈴川からの富士」

※古写真は全て富士山かぐや姫ミュージアム所蔵





# 富士山かぐや姫

ミュージアム

(富士市立博物館)



富士山に還るかぐや姫の物語を展示する、世界でただひとつの博物館です。ここで富士山とかぐや姫について知識を深めてから伝承の地を訪ねれば、物語の世界が一層広がります！

## 【開館時間】

4月～10月：午前9時～午後5時

11月～3月：午前9時～午後4時30分

## 【休館日】

月曜日（祝日の場合は開館），祝日の翌日

12月28日～翌年1月4日

## 【観覧料】

無料

## 【お問い合わせ】

〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2

TEL 0545-21-3380 FAX 0545-21-3398

e-mail museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

URL <http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/>



〈お問い合わせ〉

富士市 市民部 文化振興課 文化財担当

〒417-8601 静岡県富士市永田町 1-100

TEL 0545-55-2875 FAX 0545-53-0789

平成28年3月発行